

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4372700874
法人名	株式会社南阿蘇ケアサービス
事業所名	グループホームみなみ阿蘇
訪問調査日	平成19年11月25日
評価確定日	平成19年12月24日
評価機関名	NPOまい

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で つけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職 員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372700874
法人名	株式会社南阿蘇ケアサービス
事業所名	グループホームみなみ阿蘇
所在地 (電話番号)	〒 869-1412 熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石2721-2 (電話) 0967-67-1606
評価機関名	NPOまい
所在地	熊本県熊本市馬渡1丁目5番7号
訪問調査日	平成19年11月25日

## 【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤14人 非常勤3人 常勤換算12.8人	

## (2) 建物概要

建物形態	併設(単独)	新築/改築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての 1 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	6,000円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

## (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	70歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤医院 久木野歯科医院 菊池有働病院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南阿蘇の自然環境を十分にいかした事業所で、南棟・北棟共に光が十分に差し込み、暖かみと清潔感があった。ケア内容も、個人の尊厳を配慮しその人らしさを追求する姿勢がみられた。開所時よりの主任と施設長が先頭に立ちリーダーシップを発揮し運営推進会議も効果的に活動していた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	健康状態を見る体温、脈拍、血圧等のグラフ化を指導され導入し各個人のカルテにグラフ表が作成され活用されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	これまでの振り返り、職員間での悩みなど明確にすることができた。ケアプランに不安があったが、評価を受けることで自信になった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回の運営推進会議で、事業所の状況報告・地域の要望等が活発に意見交換されていた。新入職員の紹介コラムだけでなく、退職者の一言も必要との意見を事業所新聞に反映していた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	直接的に家族からの苦情、意見等はないが、生活上のことでお互いに常時連絡をとったり、お見舞い時の会話から家族の思いを吸い上げる努力をしている。それぞれの職員が感じたことは、毎朝のミーティング等で報告し検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の集会等、施設長や職員が地元という特徴を活かし出席したり、役員になったりと地域連携は努力されている。今後サロンの活動の計画もあり地域にどの様に事業所を活用してもらうか積極的に検討中であり、その成果が期待される。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時理念は施設長、主任、職員で何を大切に、利用者に関わるかを検討され「人生の先輩として」を基本に作られ明示されていた。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は利用者、訪問者、職員がみれる場所に示してある。月に1回朝礼で再確認している、事例を通して理念に立ち戻る努力がみられた。		月1回からもっと回数を増やすことにより、共有を深めることがより施設の評価を高めます。
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物、喫茶店などに行き、地域に出る(道の駅)機会を作っている。商工会、老人会からの協力がある。地区の掃除、消防団の仕事は勤務で出している		サロン活動を計画中、地元にあった、この地域ならではの方法を検討中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の項目が細かいし、文章化してあるので明確にできてよかった。気づき意識疎通ができ、スタッフ同士がよく理解していた。		気づきを組織的に展開する方法を検討することで有効な成果を得ることができます。
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス計画や実施状況の報告をしている。辞める人の事も広報誌に載せたほうがよい等具体的な意見交換ができている、勤務の都合で一方のユニットのみ出席している。		今後各ユニットからの出席が予定されている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の助成、行事の参加、情報がもらえる、子育て支援などの声かけがある。行政が協力的。		子育て支援の話が出ている。グループホームに子供の声が聞こえる。子供を通して、又、地域との交流がふかまるよう施設をオープンにした新たな事業に期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の通信、家族へスナップ写真を送付、新聞、お便り、健康状態報告等ができています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見はあまりない、お便りや見守り時会話から思いを吸い上げている。		「家族の会」の必要性は理解されているので、形にされ家族への認知症介護教室等が実施されることを期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にしている、馴染みの関係を大切に個別でサポートしている、夜勤をする前は数ヶ月日勤をしてから、何回かは一緒に夜勤をする等配慮されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回勉強会をしている、その時職員の悩みを聞いている、県の基礎研修には必ず出す、管理者研修、病院関係等は出している、研修報告もされている。職員勤務内では全額、勤務外(自己研修)では半額負担されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会での交流、会への出席ができています。		他の施設の見学、実習の希望あり。今後これらの希望へどのように対処していくかを計画されるとよい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>最初の関係作りを大切にしている、体験や、デイ利用も、家族が不安にならないよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に干し柿づくり、切り干し大根づくり、金魚のえさやり、犬の世話等、利用者と共に生活支援ができています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の生活援助より、本人の意向をさぐる姿勢がある。受け持ち性で、細やかに利用者の思いを把握する体制ができていた。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの受け持ち性、身体的、生きがい、家族との交流、ホームでの役割を盛り込んでいる。本人の輝きを見逃さない、できることをやってもらう(野菜づくり、茶碗拭き等)担当者会議で職員全体の意見を聞いて作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的に見直しされていた、又、日々の経過記録も状況がよく解る記録であった。</p>		<p>日々の経過記録とケアマネの支援経過記録との違い、又、評価記録の必要性、次の段階の記録を期待します。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて外出支援、又、家族の見送り(飛行場まで)対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すぐ隣に医院あり、また、他の病院の理学療法士に月2回訪問リハ依頼し適切な医療がうけられるよう支援されていた。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態悪化時は家族と協議して対応している。終末期については家族の要望、かかりつけ医との話し合いでぎりぎりまで看ているが、最後は病院で看取ることになる。		終末期をグループホームで看る、看取りをすることは、かかりつけ医の協力が必要。医療の夜間体制ができれば終末期も家族の要望に添いたいと検討中である。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カルテは名前がみえないよう、黒のフィルムで隠してある。各部屋の名札は名字のみで名前までは書かない等配慮されていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを変えず本人のペースを大切にすることで、生き生きとした動きや、表情がみられるように支援されていた。いいお天気の日はお散歩や外出などその日に決定、実行する生活支援がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作り、片づけ、又、利用者同士の声かけ等できている、食事量、水分量のチェックもできていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼間か午後より、利用者のペースに合わせ、好きな時間に入浴支援ができていた。		夜間入浴ができるよう検討されることをを期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	切り干し大根、干し柿作り、漬け物作りなど、季節に応じて、これまでの力を活用した支援ができています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添って、一人月2回くらい外出支援している、又、散歩は日常的に実施されている		
(4) 安心と安全を支える支援					
		鍵をかけないケアの実践			
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害は十分理解されていた、玄関は夜のみ鍵をかけることになっていた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回防災訓練、自主訓練を消防署と共に実施されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量のチェックは毎日できていた、また、食事形態もゼリー状、とろみ等本人の好みを配慮した工夫が成されていた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室より、南阿蘇の自然が楽しめるよう設計されている。居間、食堂は南向きで南阿蘇の山々が一望でき、また、中庭や庭も広く常に季節感を感じながら生活できる空間である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族・利用者の要望に応じて使いなれたもの、好みのもは自由に持ち込まれている。</p>		